

平成 28 年度
横須賀美術館 運営評価報告書

平成 29 年（2017 年）10 月

横須賀市教育委員会

美術館運営課

目 次

1	平成 28 年度 横須賀美術館の運営評価について	1
2	平成 28 年度の運営評価システム	3
3	平成 28 年度の運営評価結果	6
	① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	7
	② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	14
	③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	19
	④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	25
	⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	30
	⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	33
	⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	37
	⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に 運営・管理する。	41
4	横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿	44
5	横須賀美術館運営評価委員会条例	45

はじめに

横須賀美術館の運営評価委員会は、開館前の平成19年3月に発足しました。それから3年間ほど評価システムの構築に関して議論を重ね、点検評価の初年度版になります平成21年度の活動の評価を行いました。その後も毎年度評価活動を行いつつ自己点検・自己評価における課題や改善点の検討を繰り返し、横須賀美術館独自の評価システムとして運用し、このたび平成28年度の評価を行いました。

平成28年度の評価は、従来のシステムと同様、3つの使命に基づく7つの目標と、経営的視点による目標を加えた計8つの目標について評価しました。評価結果を昨年度と比較してみると、全体的には評価を上げたものの、依然として改善が見られない項目、達成目標に至らず評価を下げた項目、また、評価の高い項目であっても、今後の課題として各所に改善を検討すべき点が見受けられました。

年を追うごとに評価が上がってきており、評価システムのPDCAサイクルが正しく機能し、それが成果につながっているものと感じています。

評価システムは、日常的に行われている美術館活動を点検評価し、課題の改善や解決につなげるツールとして活用するものです。このツールを最大限活用し、良い評価を得た活動は現状の継続維持と更なる改善に努め、課題については解決へ取り組んでいくことで、市民に親しまれる美術館として活動を続けてまいります。

平成29年10月

横須賀美術館
館長 阪元 美幸

1 平成28年度 横須賀美術館の運営評価について

(1) 運営評価の目的

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は1年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

5頁に掲載した図のとおり評価全体の流れはPDCAサイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P:Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

(2) 評価項目

横須賀美術館は、その設置条例第1条に「美術を通じたさまざまな交流の機会を促進し、市民の美術に対する理解と親しみを深め、もって文化の向上を図る」と、設置の目的を明記してあります。そしてこの目的に沿った「使命」を掲げ、「使命」に基づいた「目標」を示し、この目標を評価項目として体系づけました。それぞれの目標には、「達成目標」と「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく項目となります。

なお、「達成目標」は数的指標であり、具体的な数値目標が示されるため、達成の成否は客観的に明らかです。評価者は、その他の資料もあわせみたくうえで、達成の度合いを判断し、総合的な評価を行います。

いっぽう、「実施目標」は質的指標であり、評価者は、運営者の行動報告に基づいて、主観的評価を行います。

評価項目は、「平成28年度評価システム」として3～4頁をご覧ください。

(3) 評価基準

達成目標と実施目標共通の基準を設けています。

目標に到達したかを「S」から「D」の5段階とし、以下の基準としました。

S：優れた成果を挙げている

A：目標を達成している

B：目標をほぼ達成している

C：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F：判定不能を設けています。

*現在の評価項目は、平成22年度に見直し、現在に至っています。

【目標の性格】（平成 22 年度から）

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」：数的指標

- ・「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- ・主に外的要因（来館者の動向など）によって結果が左右される。
- ・達成したかどうかは客観的に判断される。
(達成した場合のS/Aの別、達成しなかった場合のB～Dの別は、各委員の裁量の範囲。)

「実施目標」：質的指標

- ・「目標」を達成するための行動計画。
- ・運営者側の計画的な行動であり、充分であるかどうかは各委員の主観的な判断による。
- ・端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

【評価基準】

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

評価基準 (平成 22 年度から)	
すぐれた成果を挙げている。	S
目標を達成している。	A
目標をほぼ達成している。	B
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D
判定不能	F

S～Dの5段階評価に、「F」（判定不能）を加えた。「A」と「B」の間に「目標」がある。

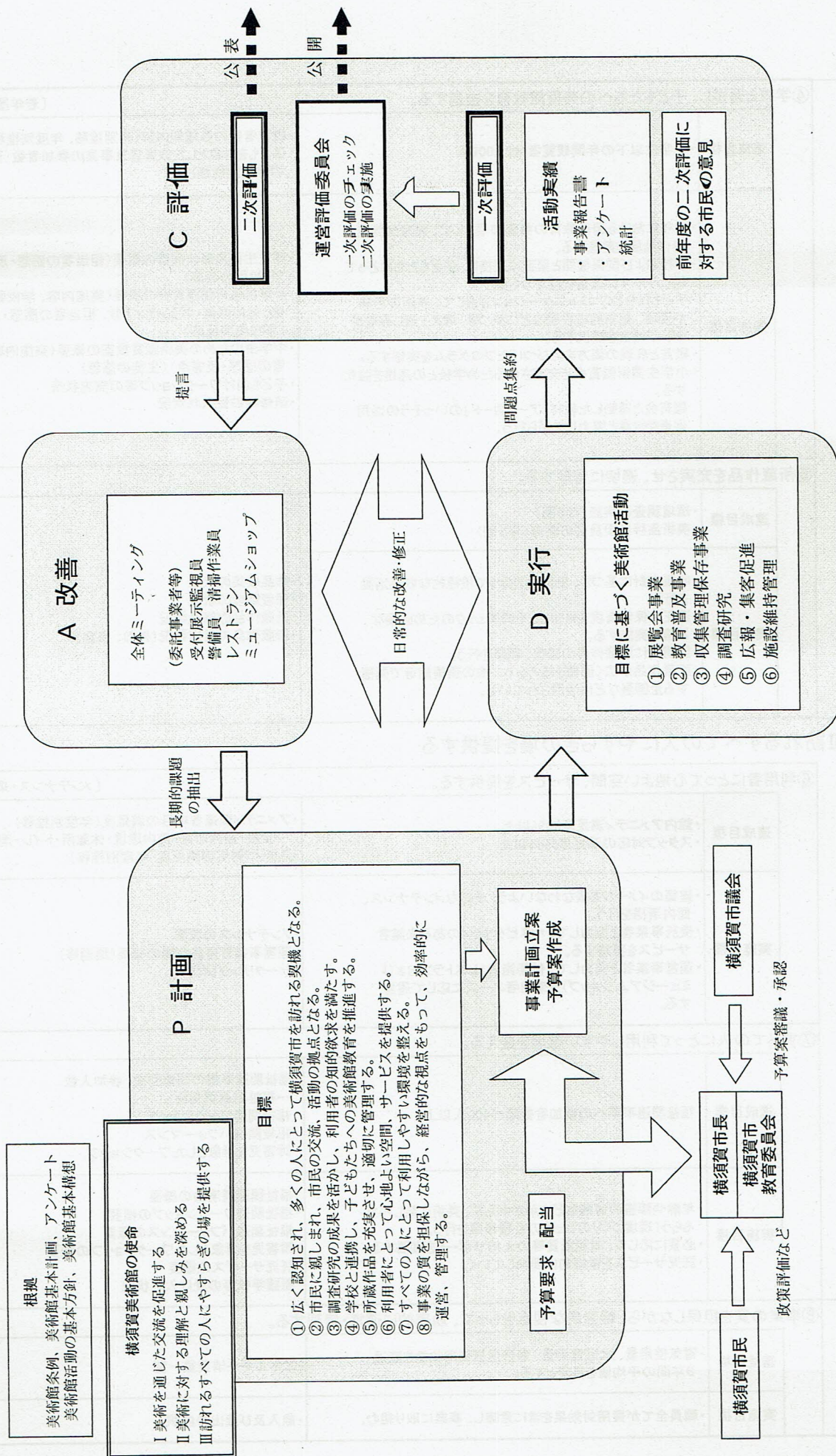
- ・目標を達成していれば「A」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- ・目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- ・結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「D」評価を設けた。
- ・専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「F」（判定不能）を設けた。

2 平成 28 年度の運営評価システム

使命	目標	指標	参考資料
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	・年間観覧者数100,000人以上	・年間観覧者数(年度別推移) ・年間来館者数(年度別推移) ・駐車場利用状況(年度別推移) ・来館回数(年度別推移) *リピート率 ・居住地域(年度別推移) *市民率 ・交通手段(年度別推移)	
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。	・各種メディアへの掲載実績 ・訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況)	
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,000人(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サポボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)	
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	・ボランティア関連事業の概要 ・(ボランティアの感想・反応)	
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	・企画展の満足度80%以上	・各企画展の満足度 ・所蔵品展の満足度(年度別推移) ・谷内六郎展の満足度(年度別推移)	
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。 ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) ・所蔵品展の概要(同) ・谷内六郎展の概要(同) ・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) ・大人向けワークショップ等の実施状況(同) ・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) ・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) ・学芸員による論文、発表等	

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		[若年層への教育普及]
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校および関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。 鑑賞会と連動した教材「アートカード」のいっそうの活用促進を教員と協力しながら行う。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		[収集管理]
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する		[運営・管理]
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		[メンテナンス・来館者サービス]
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ400人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・託児サービスを積極的に周知していく。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。		[経営的視点]
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳

横須賀美術館運営評価システムの全体像



ふるさと未来を創るまちづくり推進計画

ふるさと未来を創るまちづくり推進計画（第1次）の進捗状況について、本計画の進捗状況を

項目	進捗状況

（注）人000単位で表示する（小数点以下は省略）

3 平成28年度の運営評価結果

【由緒の宝蔵継承】

ふるさと未来を創るまちづくり推進計画（第1次）の進捗状況について、本計画の進捗状況を評価する。平成28年度の運営評価結果は、計画の進捗状況が概ね進捗していること、また、計画の進捗状況を評価する。平成28年度の運営評価結果は、計画の進捗状況が概ね進捗していること、また、計画の進捗状況を評価する。平成28年度の運営評価結果は、計画の進捗状況が概ね進捗していること、また、計画の進捗状況を評価する。

【由緒の価値発見】

平成28年度の運営評価結果は、計画の進捗状況が概ね進捗していること、また、計画の進捗状況を評価する。平成28年度の運営評価結果は、計画の進捗状況が概ね進捗していること、また、計画の進捗状況を評価する。

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	進捗率
人口	108,413人	114,541人	119,071人	124,101人	

進捗率の算出方法は、(計画目標値 - 実績値) / 計画目標値 × 100(%)とする。計画目標値は、計画の進捗状況を評価する。

1 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。
- ・平成28年度は、これまで毎年達成すべき観覧者数としてきたミニмумライン10万人以上を達成目標とします。

〔一次評価の理由〕

- ・年間観覧者数100,000人という目標設定に対し実績は108,413人となり、達成率108%と目標を上回りましたが、前年度より減少したことから「A」評価としました。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
観覧者数	101,841 人	113,007 人	114,861 人	108,413 人

注) 美術館を利用した人の実際の姿を表すものとして、展示を観覧した人の数である観覧者数のみを表記することとしました。